

三省堂 国語教育

ことばの学び

a new way of learning Japanese



平成24年度版

『中学生の国語』教科書特集号I



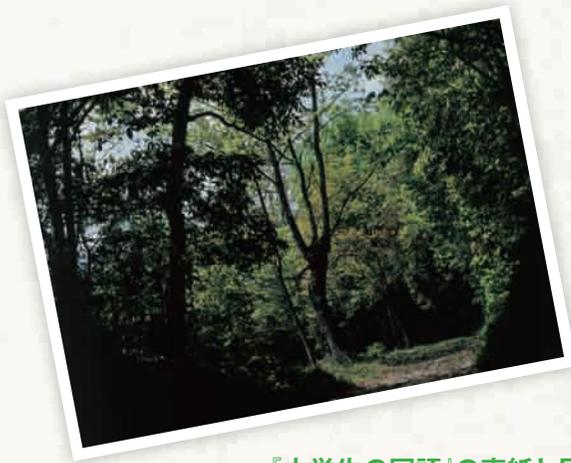
三省堂 130th Anniversary 三省堂創業130周年

最初の1ページの前に…

身近な自然がくれたもの

身近な里山の自然を長年にわたって撮ってきました。
その原動力はというと、私の場合は、子どもの頃に見たり体験した思い出にあるように思います。
汗水をたらしながら沢をのぼって、突然前に立ちはだかったトチの巨木。
その堂々とした姿には圧倒されました。
また、田んぼの間を流れる水路のような小川は、いつもキラキラと光っていました。
水面に顔を近づけると季節を奏でる小さな水音が響いていました。
私は今、心の中に堆積したそれらの記憶をひとつずつカメラを使って記録している。
そんな気がしてなりません。
多感な子ども時代というのは、大人になってからの基礎を築きたいへん大切な時期なのだなど、
自分の経験から、つくづく感じます。
この教科書を使ってくれるひとり一人が、なにげない自然の営みにいつまでも目を配ることのできる
感性豊かな大人になってほしいと願っています。

今森光彦



『中学生の国語』の表紙と見返しの写真は、
1年が「木」、2年が「水」、3年が「空」を
テーマにしています。
全て今森光彦さんの作品です。



いまもり みつひこ /
1954年、滋賀県生まれ。
写真家。写真集に『里山物語』(新潮社)、『湖辺』(世界文化社)、写真絵本に『ダンゴムシ』(アリス館)など多くの著書がある。



三省堂 国語教育

ことばの学び

a new way
of learning
Japanese



平成24年度版『中学生の国語』教科書特集号I

CONTENTS

02 私が中学生だった頃 熱血先生に出会う 山口仲美

『現代の国語』から『中学生の国語』へ

04 “教科書で学ぶ”という造り 中冽正堯

05 新学習指導要領とこれからの国語の授業 高木展郎

平成24年度版『中学生の国語』の基本構成

06 三省堂の教科書が生まれ変わりました

『中学生の国語』の8つのポイント

08 ① 何を学ぶのかははっきりみえる ▶
「つきたい力=学力」が明確な教科書 三浦修一

10 ② 生徒の課題意識にはたらきかける古典 ▶
伝統的な言語文化 新しい学習活動をどう展開するか 尾木和英

12 ③ 焦点化で、「書くこと」が好きになる ▶
方法と世界の広がりとは焦点化 河野智文

14 ④ 「読むこと」で広い視野と心が育つ ▶
平成24年度版『中学生の国語』の「読むこと」の教材一覧 『中学生の国語』編集委員会

16 ⑤ 考えて、交流し、書いて身につく手引き ▶
ひとり学びから始まる「学びの道しるべ」 『中学生の国語』編集委員会

18 ⑥ 常用漢字が増えても安心 ▶
新しい漢字の学び方を提案する 伊坂淳一

20 ⑦ 三領域の指導事項の全てが繰り返し学べる ▶
言語能力を着実に育てる 『中学生の国語』編集委員会

22 ⑧ 他教科の時間や日常でも使える資料が充実 ▶
言語活動をより豊かにするために 松友一雄

24 変わる中学校の古典学習 第1回 新入生との出会いは「古典」で 佐藤佐敏

26 常用漢字になりました。 第1回 「地名」に関する漢字 笹原宏之

28 教育と数字 第1回 どう生かす?電子黒板 尾木和英

表紙イラスト
あずみ虫

エッセイ

私が中学生だった頃

熱血先生に出会う

●明治大学 山口仲美

「中学生時代の思い出を書いてください」というのが編集部からの依頼。ああ、よかった、「国語」の授業などをテーマにしなくてもいいのね。私は、内心、ほっとしました。というのは、中学時代の国語の時間は、担当の先生が病弱であつたらしく、ほとんど授業がなかったのです。いつも自習でした。国語の授業を楽しみにしていた私には、これはかなりこたえました。窓の外の校庭を見ながら、「先生が授業をしてくださると、もっと楽しいのにと、授業がなされることを切望していました。」

そんなわけで、中学時代の国語の授業に関する思い出は、残念感でいっぱい。でも、それを補って余りある熱血先生がいらつしやつた。理科の先生です。私は、おおよそ文科系人間ですから、理科なんか好きであるわけがない。ところが、いまだにその先生が熱を帯びて語ってくれた「オームの法則」なんて覚えている。電気抵抗と電流は反比例するとか、どのくらいの電圧を流す必要があるかは電気抵抗と電流を掛けると求められるとか。先生は、授業中、教科書なんて一切見ない。最初から最後まで、生徒の顔を見て話しかける。そして、授業の合間に未知のことを追究するのがいかに楽しいかを生徒に教える。「夜遅くまで、世界でたった三人しかしていない研究をやっている時、おまえたちわかるか？ その充実感！ 明かりが家族の睡眠の妨害にならないようにナ、こうやって電気の明かりを囲つ

130



やまぐち なかみ／明治大学教授。著書に『日本語の歴史』（岩波新書）、『いぬは「びよ」と鳴いていた』（光文社新書）、『ちんちん千鳥のなく声は』（講談社学術文庫）など。最近『日本語の古典』（岩波新書）を刊行。

て漏らさないようにして論文を書くんだ。研究って楽しいぞ！」先生の顔は、黒板の前で光を放っている。さらに、今やっている研究の一端を話してくれる。むろん、私たちは、最先端の研究などわかるわけがないのだけど、研究することがいかに楽しいことであるかを肌で感じる。

先生の情熱は、人間的な教育にも注がれていた。戦争の話になった時、先生は低く良く通る声で寂しげに歌を歌ってくれた。「みんな去年と同じだよ、けれども足んねえものがある、兄の薪あんわる音がねえ、ばっさり薪あんわる音がねえ。兄は満州へ行っただよ、鉄砲が涙で光っただ……」戦争の空しさを、先生は哀調のある「もすが枯れ木で」という歌で、心にしみ込むように教えてくれたのでした。理科の時間であることも忘れて、私はうつすらと涙を浮かべて聞いていました。私の父も戦争で亡くなっていました。

先生は、私たちの学年を高校に送り出した後、中学教師をやめ、大学院に進学して研究者の道を歩んでいきました。

私は、その後、高校に行って日本の古典語の魅力を教えられ、言葉を追究する研究者になり、大学で教えるようになりました。対象は違うけれども、私の研究や教育への情熱は、間違いなく中学時代の先生から授かったものです。



『中学生の国語 学びを広げる 三年』に、
山口仲美先生の「日本語を見つめる」を掲載しています。

『現代の国語』から『中学生の国語』へ

教科書で学ぶとどう造り

●兵庫教育大学名誉教授 中渕正堯（『中学生の国語』監修代表）

これまで国語教科書編集の基本方針として①読み解くに価する自然、文化、社会の題材内容を配列すること、②児童・生徒のことばの学習の自立と教師の授業の創意工夫を推進すること、③学習指導の精選・重点化と読書学習の推進を図ること、④書写、漢字、語句・語彙の学習指導の一体化を推進すること、⑤すべての言語活動を表現（とりわけ書くこと）で裏打ちすることなどを心がけてきた。

この基本方針をふまえ、今回の新しい教科書の構成にあたっては、教育全般に重視される言語活動、その中核にはたらく思考力・判断力・表現力のこと、学習指導の基本態勢としての知識・技能の習得・活用・探究のこと、そして国語科の全体目標と各領域内容の意識化のこと等について積極的に配慮する。

そのために、教科書を二冊の造りとした。『中学生の国語』は、「本編」と「確かめよう」の二部からなる一冊、『中学生の国語 学びを広げる』は、資料編としての一冊である。

『中学生の国語』の「本編」は、国語科の目標から導かれる言語能力の諸要素を指標とする教材構成をとつ

ている。言語能力の諸要素とは、国語を表現する能力（表現力）、理解する能力（理解力）、伝え合う力、思考力、想像力、言語感覚、国語に対する認識（伝統的な言語文化を含む）と国語を尊重する態度などである。これらの要素は構造的、有機的につながり合っている。したがって、例えば「表現力」という教材構成は、それ自体で完結するのではなく、あくまでもそれを指標として、学習指導は他の要素と緊密に関連しながら展開するものである。

『中学生の国語』の「確かめよう」は、学習指導要領の内容（指導事項）を基礎・基本ととらえて自学しやすく構成したもので、「本編」の学習を補完する。

『中学生の国語 学びを広げる』は、資料編として、国語科での学びを広げると同時に、他教科や日常に開かれた学びに資するものであり、学びのネットワークのコンセプトの役割を果たす。

以上、「本編」の教材構成と、「確かめよう」の基礎・基本と、『中学生の国語 学びを広げる』の日常化、社会化とを有機的に結び合わせるとき、「中学生の国語」の教科書で学ぶという造りの本領が発揮される。



なかす まさたか
兵庫教育大学名誉教授。国語
教育探究の会・国語論究の会。
国語教育地域学。

新学習指導要領とこれからの国語の授業

— 言語能力育成に向けて —

● 横浜国立大学 高木展郎（中学校の国語編集主幹）

平成24年度から、中学校の学習指導要領の全面实施となる。新学習指導要領は、学校教育法の30条2項に示された学力を受け、学力の重要な三つの要素を、次のように提示している。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得、
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、
- ③ 学習意欲、

この中でも、「思考力・判断力・表現力」は、「力」ということばによって示されているように、学力の中心となるものである。

この思考力・判断力・表現力の育成には、活用という学習活動とともに、各教科等における言語活動の充実が求められている。

新学習指導要領では、各教科等において言語活動の充実を図らなくてはならないが、特に、国語科においては、この言語活動を通して、言語能力の育成を図ることが重要である。国語科における言語能力は、学習指導要領に示されている「目標」と「内容（指導事項）」

である。国語科の目標は、次のように示されている。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

これまでの国語の授業では、この国語科の目標があまり意識されず、特に教科書においては、教材が中心となり、言語能力の育成という観点が悪かった。そこで、国語科の目標に沿って言語能力を育成するためには、言語能力を明確に位置づけた単元構想の下に、年間の国語の授業を行わなくてはならない。

教材単位ではなく、年間を見通したカリキュラムの中に、国語科の目標に示されている言語能力の育成を意図的・計画的に位置づけなくてはならない。それが、指導と評価の一体化を生み、言語能力を明確にした国語の授業を行うことになり、生徒に言語能力の育成が図られるということにつながる。

たかぎ のぶお
横浜国立大学教授。文化庁文化審議会委員。中央教育審議会国語部会副主査。中央教育審議会評価ワーキング委員。文部科学省言語活動充実に関する指導資料作成に関する協力者会議座長。



三省堂の教科書が生まれ変わりました

本編十資料編の教科書

『現代の国語』から



『中学生の国語』

『中学生の国語』

学びを広げる』（別冊 資料編）へ

言語能力育成の教科書

『中学生の国語』

・国語の授業の場で使用し、言葉の力をつけるための教科書です。

冥王星が「準惑星」になったわけ

本編

「指導事項」を全ておさえた「必修」教材が入っています。

この状況は第一の技術革新、元々地球の地



「冥王星を『準惑星』とする案の賛否の様子」
「冥王星の『準惑星』を伝える新聞（『準惑星』は『準惑星』の名称が決まる前の呼び名の一つ）」



「冥王星が『準惑星』になったわけ」



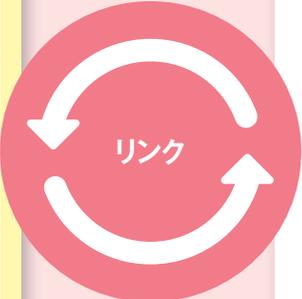
『中学生の国語 学びを広げる』

・学習した知識・技能を整理し、主体的な学習活動を充実させるための教科書です。

読書ページや豊富な写真によって、言葉・伝統・文化へのイメージがふくらみます。



確かめよう
国語科に身につけたい
言語技能を、領域ごとに整理して
まとめました。



12 論理の展開を捉えるには
小林さん、この論議にどうして説得力があるのかを考えてみたいと思いませんか？

「小林さん、この論議にどうして説得力があるのかを考えてみたいと思いませんか？」という問いかけは、授業の重要なポイントに当たると思います。この問いかけは、単に「どうして」という問いかけではなく、論議の展開を捉えるための問いかけです。この問いかけは、論議の展開を捉えるための問いかけです。この問いかけは、論議の展開を捉えるための問いかけです。

12 論議の展開を捉えるには 230

231 読むこと (説明)

冥王星 降格
惑星は8個新定義
発見後70年、惑星に
昇格しなかった冥王星は、
2006年国際天文学連合の
決議で「冥王星を中心とした天体構成つまり「太陽系」
という宇宙の捉え方を生み出す結果となった。
当時の太陽系は、太陽を中心とした六つの惑星と地
球の衛星である月、そして木星の四つの衛星だけで
あった。

41 わかりやすく読べ

見開き2ページで
「中学校学習指導要領」の指導事項に示されている力を確認します。
3領域すべての力がまとめて載っているので、
繰り返し学習することもできて便利です。

「中学生の国語 三年」より
「中学生の国語 学びを広げる 三年」より

学力をつける
教科書

表とグラフによる効果
資料を適切に活用できる表とグラフを活用し、
効果的に伝えることができます。

詳細を表現する
資料の支出
増減つ折れグラフ
多様な要素を表現する
集積棒グラフ

関係性を表現する
データの傾向や関係性を
一目で把握できます。

表現力を高めたいときは
資料の活用
資料の活用
資料の活用

常用漢字活用字典
常用漢字活用字典
常用漢字活用字典

常用漢字活用字典
常用漢字活用字典
常用漢字活用字典

「常用漢字活用字典」
では、全ての常用漢字の
読み方を五十音順に
並べ、用例を示しました。

他教科の時間や
日常生活の場面でも
使える資料

最新作
アニメーション
アニメーション
アニメーション

アニメーション
アニメーション
アニメーション

「中学生の国語」の8つのポイント ▶ 何を学ぶのかがはっきりみえる

「つきたい力」が明確な教科書

● 横浜国立大学 三浦修一

「国語」の授業で学ぶ学力を示した教科書

生徒たちは国語の時間に何を学んでいるだろうか。ある話題について話し合う学習が行われる。さまざまな種類の文章を書く学習が行われる。物語や小説、科学的な説明文などを読んでその内容について考える学習が行われる。漢字の読み書きや言葉の決まりを覚える学習が行われる。字を書く学習が行われる。

それではこれらの学習を通して、どのような「学力」言葉の力」が身につくという自覚が学習している生徒自身にはあるだろうか。

国語以外の他の教科を考えると課題が明らかになる。例えば数学では「正の数・負の数」という単元では、「中学校学習指導要領」の内容に示された「正の数と負の数の必要性和意味を理解すること」についての学習が行われ、生徒が身につけたい学力は明確に示される。

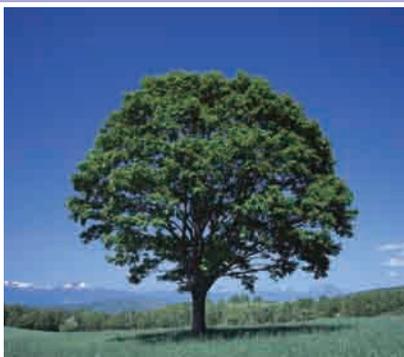
ひるがえって、これまでの国語の教科書はどうだっただろうか。冒頭に示した学習活動が行えるようにはなっていた。しかし、その学習を行いどのような「学力」言葉の力」を身につける必要があるのかということは示されてこなかった。学習する生徒にそれを自覚させることがされてこなかったのである。

『中学生の国語』は、全体としてこの課題に取り組んだ教科書となっている。



みうら しゅういち／横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター非常勤講師。国語教育、カリキュラム・マネジメントと学校経営、学習と評価・教師の授業力向上などを中心に、教育委員会・教育センター、小・中学校での研究支援・研修支援を行っている。

言語感覚 言葉の感覚を磨く



これから、この木にはどんな風が吹くでしょう？

- 対話劇を体験しよう
- 「ありがとう」と「言わない重さ」
- 大切な言葉で編む
- 表現につながる文法2
- 漢字を使いこなそうの

ズーム

「中学生の国語 三年」の単元扉

思考力 論理的・多角的に考える



こおろぎのお兄さんはおとなしい猫ちゃん、カトムシのババはどっさり積んで力持ち、アアハハのおばあちゃんは親子で社交的では、いつものんびり自然体なのは？

- 思考力を育てよう
- 読解力
- 漢字を覚える
- 漢字を覚える

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

「中学校学習指導要領」国語の目標

身につける力が明確な教科書

『中学生の国語』では、「学習指導要領 国語」の「目標」こそが、国語の時間に身につける「学力＝言葉の力」と位置づけ、単元を構成している。

この教科書で学習することにより、①国語を適切に表現する力、②正確に理解する力、③伝え合う力、④思考する力、⑤想像する力、⑥言語感覚を豊かにする力が身につくことになる。また、「国語に対する認識を深め国語を

表現力 わかりやすく述べる

五円玉と言わないで、人に説明できますか。

- 『ひらがな』に「よ」をどう書くか
- 『私』の友誼を感じよう
- 『私』が『私』を感じよう
- 『私』が『私』を感じよう
- 『私』が『私』を感じよう
- 『私』が『私』を感じよう
- 『私』が『私』を感じよう
- 『私』が『私』を感じよう

伝統的な言語文化 言語文化に親しむ

声に出して読めますか。

- 『おのゝほ』

伝え合う力 ともわかり合う

言葉を使わないコミュニケーションには、どんなものがありますか。

- 『おのゝほ』

理解力 判断して説明する

何が同じ？ 何が違う？

- 『おのゝほ』

尊重する態度を育てる。」ことの前提となる「伝統的な言語文化に触れ、学ぶ」ことを重視して、そのための単元を設けている。

このことは、具体的な教材においても同様であり、すべての教材の最初に、「この教材で学ぶこと」を示し、さらにそれぞれの教材で「学んだことを自覚させるように」「振り返る活動」を行うこととした。

『中学生の国語』は、このように「身につける力」が明確な教科書となっている。

国語の時間に学習する内容とは何か、どの

ような方法でそれを学習するのか、学力が身についたかどうかを確かめるために何をすればよいのか。

『中学生の国語』は、これらのことに応えられる教科書である。それは、「生徒に学習する自覚を促す教科書」であり、授業を行う先生方にとっては「生徒に学習させるための教科書」である。このような考え方に沿って編集された教科書こそが、これからの時代に求められる「身につける力＝学力」を育てる教科書であるといえるのではないだろうか。

言語感覚 言葉の感覚を確かめる

これから、この木にはどんな風が吹くでしょう？

- 『おのゝほ』

想像力 さまざまな見方・考え方を知る

この地図から、気づくことはありますか。

- 『おのゝほ』

「中学生の国語」の8つのポイント ▽ 生徒の課題意識にはたらきかける古典

伝統的な言語文化 新しい学習活動をどう展開するか

● 東京女子体育大学名誉教授 尾木和英

春

声に出して読むことを中心とした文化の中の言葉と向き合う古典

年に2回学習

物語 リズムを感じ取りながら読もう。

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。
ギョウエンセイカノネノネ、シヨウギョウムジヨウノヒビキアリ。



課題をもって書こう

「故事成語」を使って書こう

● 題材の使い方について感想を交流する。

「矛盾」「蛇足」「五十歩百歩」「漁夫の利」……。
故事とは、中国に昔から伝えられている話のことで、その言い伝えなどの中から生まれた短い言葉が故事成語です。
故事成語の由来を知り、自分たちの表現での生かし方を考えてみましょう。



- 1 故事成語の由来を読む
 - 2 意味と由来を調べる
 - 3 文章を書く
 - 4 感想を交流する
- 振り返る

確 266



おぎ かずあき／東京女子体育大学名誉教授。東京都教育委員会指導主事等を経て現在は言語教育文化研究所代表理事を務める。その間、中央教育審議会専門委員、学習指導要領改善調査研究協力者等。編著書に「学校力」（三省堂）など。

娑羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらはす。
シヤラソウジュノハナノイロ、シヤウシヤウヒツツ、シヤウシヤウヒツツ、シヤウシヤウヒツツ

おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

たけき者もつひには滅びぬ、

ひとへに風の前の塵に同じ。

『中学生の国語 一年』より

秋

領域と関連させた学習で
考える力を伸ばす古典

『中学生の国語』のしずさ

『中学生の国語』では、各学年冒頭と学年後半の「想像力」の単元との二箇所に古典学習が位置づけられている。さらに、別冊資料編の『学びを広げる』にも、「江戸の笑い 川柳」（一年）、「狂言 柿山伏」（二年）、「おくのほそ道 紀行」（三年）などの教材が採録されている。学習の展開においては、主体的に学ぶこと、ともに学ぶことが重視され、その学習にふさわしい教材が位置づけられている。例えば、第一学年において、「声に出して、さまざまな作品を読もう。」として和歌、俳句、随筆などの教材を位置づけ、その後「竹取物語」を取りあげている。

これは、生徒の小学校での学習の重視である

り、中学校の古典学習開始への配慮である。中学校での古典学習は楽しい。やりがいがある。学び手としての、古典へのはたらきかけの快感を大切にしたい、その思いがここに込められている。

これはこの教科書全体を貫く思いである。学習者のやりがいの基盤は興味・関心である。『中学生の国語』においては、教材の選定・編成、学習活動の組織、全ては学習者主体の活動展開に基礎を置いている。同時にその工夫は、指導者自らの構想に従っての、創意を生かした指導のためのものである。

伝統的な言語文化に関する 指導上の課題とは

古典に関する事項は小学校から系統的に設

定されている。したがって中学校の指導では、小学校での指導をふまえ、わが国に長く伝わる言語文化への関心を広げ、深めることが課題になる。

例えば、「中学校学習指導要領 国語」において、一年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(一)ア(ア)には、「文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。」とある。

この内容について、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の指導を通して扱うことになるのだが、まずは、小学校との接続、学習者に感動と発見をもたらす学習の組織が求められる。『中学生の国語』は、こうした課題をふまえ、学習者が価値を見だし、創造的に受け止め、古典に一層親しませるよう留意されている。

『中学生の国語』におけるポイント

『中学生の国語』は、生徒の意欲的な学習を促すため、(一)効果的な指導展開、(二)教材の選定および配列、(三)学習活動の組織、(四)発展的な学習への広がり、に工夫を凝らしている。各地の国語教室における、新しい古典指導開発を願っている。

「中学生の国語」の8つのポイント

焦点化で、「書くこと」が好きになる

方法と世界の広がりと焦点化

福岡教育大学 河野智文

全国学力・学習状況調査やPISA調査の例を引くまでもなく、確かな学力の育成のために「書くこと」はその重要性を増している。思考力や想像力の伸長の面でも、学習習慣の確立の面でも、書いて考え、書きまとめることが大切になる。そのような「書くこと」学習への期待に応えようとすればするほど増加する生徒の学習負担を、『中学生の国語』は、焦点化によって克服した。

「中学校学習指導要領 国語」の「書くこと」の指導事項は、学習の過程を反映したものと^{※1}なっている。冒頭のページで一連の学習過程を示し、生徒に見通しをもたせつつ、どの段階に焦点化したものを明確にして、大型化・長時間化を避け、ねらいをしぼった学習指導と評価を可能にした。また、全ての学習で「振り返る」ことを重視し、確かな定着を図っている。^{※2}「確かめよう」ではさらに徹底して、学

習活動を支える諸技能を無理なく習得できるようにしている。

「引用」や「編集」の技法の育成にも力を入れた。「古典の一節を引用」することや和歌の紹介も取り入れ、「大切な言葉」を編集するアンソロジー作りでは、短時間で編集の活動に取り組めるようにしている。必要に応じて参照できる別冊資料編『中学生の国語 学びを広げる』の「情報活用編」^{※3}は、他教科での書くことの機会でも活用が可能である。

鑑賞や創作、批評など、言語活動例に示された新たな観点についても、興味もてる題材と活動を設定した。案内や報告、手紙の文章は、生徒の日常生活に即した場面を設定し、広く生かせる「書くこと」の力を育てるものとなっている。発想することを楽しむ活動も盛り込んだ。お互いのアイデアの違いを価値ある豊かさとして受け止め、書くことの楽しさを実感できる交流の方法や、友達の文章へ送るメッセージも具体的に示し、生徒が自然



かわの ともふみ／福岡教育大学准教授。『中学生の国語』編集委員。国語単元学習を観点とした戦後国語教育の歴史的展開を研究対象としている。

「私の友情論」を書こう



課題をもって書く

●資料を適切に引用して語学力のある文章を書く。
●書いた文章を読み返し、文章全体を整える。



「私の友情論」を書こう 34

『中学生の国語 三年』より
※1

あなたは「友情とは何か」とい
う問いにどう答えますか。

自分の考えがうまくまとまらな
いときや言葉にできないときは、
他の人の考えを資料として集め、
それに触れることで、自分の考え
をまとめるきっかけとすることが
できます。

また、資料を例に使ったり、根
拠としたりすることで、自分の考
えをよりわかりやすく、説得力の
ある表現にすることができます。



- 1 自分の考えを書き出す
- 2 資料を選び、引用の仕方
を考える
- 3 カードをもとに書く
- 4 交換して読み合う

振り返る

『中学生の国語』

「中学生の国語」の8つのポイント 「読むこと」で広い視野と心が育つ

平成24年度版『中学生の国語』の「読むこと」の教材一覧

●『中学生の国語』編集委員会 ※赤字は、平成24年度版での「読むこと」の新しい教材を示しています。

現代的な課題を取りあげ、論理的な思考力を育てる説明文教材、豊かな感性と、命の価値を考える文学教材をバランスよく揃えました。

文学 説明

水田のしくみを探る
ユニバーサルな心を目指して
この小さな地球の上で
信頼をつなぐ
食感のオノマトペ

岡崎稔
三宮麻由子
手塚治
小関智弘
早川文代

空中ブランコ乗りのキキ
詩三編 夕焼け
いるか
雨ニモマケズ

別役実
工藤直子
谷川俊太郎
宮沢賢治

壁に残された伝言
日本人はアリスの同類だった
「循環型社会」とは何か
日本語メガネのかけ替え

井上恭介
高畑勲
片谷孝孝
アーサー・ピナード

詩二編 大阿蘇
走れメロス
わたしを束ねないで
小さな手袋

三好達治
新川和江
太宰治
内海隆一郎

冥王星が「準惑星」になったわけ
「文殊の知恵」の時代
海馬
「ありがとう」と言わない重さ

渡部潤一
北川達夫
池谷裕二・糸井重里
呉人恵

詩二編 初恋
猫
うち 知ってんねん

島崎藤村
島田陽子
トーベ・ヤンソン
「訳」渡部翠

1年

ものづくり 共生 福祉 自然 ことば

NEW 水田のしくみを探る
水田には先人の知恵が詰まっていた。水田のしくみと、私たちの生活にもたらす恩恵とは何か。

岡崎稔

食感のオノマトペへ
早川文代



2年

環境 文化 平和 国際理解 ことば

NEW 日本語メガネのかけ替え
アーサー・ピナード

英語を母国語とする筆者の、異なる言語を使って世界を眺めることの、驚きと喜びとは。



3年

脳科学 情報メディア 宇宙 国際理解 ことば

NEW 「文殊の知恵」の時代
北川達夫

「ありがとう」と言わない重さ
呉人恵

情報があふれ、さまざまな国や地域の人と接する機会が多くなった現代社会、変化の時代を生きる知恵を説く。



タオル
トロッコ

重松清
芥川龍之介

蒼いみち

小澤征良

高瀬舟

森鷗外

NEW タオル

少年はタオルをねじって細くした——いつも祖父がそうしていたように。

重松清
しげまつし



近代文学

トロッコ

あくたがわりまのすけ
芥川龍之介

NEW 蒼いみち

草野冬彦は私が六歳のときからの幼なじみだ。ガサツで、乱暴者でガキ大将だったフユちゃん。

小澤征良
おざわせいり



近代文学

走れメロス

だざいおさむ
太宰治

NEW 高瀬舟

喜助はその苦をみているに忍びなかった。苦から救ってやろうと思つて命を絶つた。それが罪であろうか。

もりおうがひ
森鷗外

近代文学



少年の日の思い出

注文の多い料理店
森の地図
アイスキャンデー売り
速い生活、だいじょうぶ？
玄関扉
数え方でみかく日本語
初天神
江戸の笑い 川柳

ヘルマンIIヘツセ

〔訳〕高橋健二
宮沢賢治
阿部夏丸
立原えりか
本川達雄
渡辺武信
飯田朝子
川端誠
興津要

幸福

夏を見上げて。
凧になったお母さん
卵の立つ話
武器なき「出陣」千本松原が語り継ぐ
「話の地図」を相手に示そう
友愛——14歳の君へ
狂言 柿山伏

安岡章太郎

あさのあつこ
野坂昭如
中谷宇吉郎
船戸政一
池上彰
池田晶子

故郷

吾輩は猫である
終わりのない散歩
デューク
二十年後
鉛筆削り
伍入りドロップ
春の数え方のくいちがい？
あいさつは心のパスポート
戦争と平和を思う
ひとひらの笑顔
日本語を見つめる
旅立ちに向けて——詩二編
虹の足
峠

鲁迅〔訳〕竹内好

夏目漱石
石田衣良
江國香織
〔訳〕金原瑞人
村上春樹
小川洋子
日高敏隆
外山滋比古
林京子
オユンナ
山口仲美
吉野弘
真壁仁

『中学生の国語』の8つのポイント

考えて、交流し、書いて身につく手引き

ひとり学びから始まる「学びの道しるべ」

●『中学生の国語』編集委員会

「読解の手引き」からの脱却

教科書において「読むこと」の学習を支える重要な役割を果たすのが、「学びの道しるべ」（学習の手引き）である。学習者は、「道しるべ」（手引き）にそって教材文を読み進めることで、国語科で身につける能力の獲得を目指すことができるしくみになっている。

しかし、「読むこと」の活動はつけるべき能力が学習の流れの中で意識しやすい「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動に比べて、学習の目標が見えにくくなりがちである。なぜなら、教える側が文章の構造や表現といった要素について考える力を主として学ばせたいと考えても、そこに至るために必要と考えられる登場人物や話の展開といった要素のほうが、教わる側の頭には残りやすいからである。

さらに、これまでの学習の手引きは、基本的に教材文の内容を読解する手順と方法を示

すものであり、学習をとおして達成すべき能力の獲得が、学習者にとって見えにくい場合もあった。

学習目標の達成を目指して

新しい『中学生の国語』では、この課題に取り組みべく以下の二つの点で改訂を行っている。

- ・「読むこと」の教材で学ぶことを明らかにする。

- ・課題に取り組みことで、スムーズに学習目標を達成できるような「学びの道しるべ」（学習の手引き）とする。

前者については、教材冒頭に「課題をもつて読もう」として学習目標を明記することで、学習者が見通しをもてるよう配慮した。

後者については、「学びの道しるべ」で「ひとりで学ぶ」↓「みんなで学ぶ」↓「学びを振り返る」という三段階のステップを踏むことで、学習の目的とそれによってつけたい能

力を明確にしている。

まず「ひとりで学ぶ」に取り進むことで、つけたい能力に必要な、読みの前提となる要素を押さえさせる（このとき、一人で考える時間を保障することが、「みんなで学ぶ」の学習活動への足がかりとなっていく）。

次に、「ひとりで学ぶ」で考えたことをもとに、「みんなで学ぶ」の課題に取り組みことで、自分の考えと友達（他者）の考えとを比べ、読みを深める。

最後に、「学びを振り返る」に取り進むことで、学習をとおしてつけた能力を振り返るとともに、書くという行為によって学習した力を定着させる。

これら三段階の学習活動を設定することで、学習の見通しと振り返り、そして能力の明確化と定着という課題を解決し、「読むこと」の学習における子どもたちの学びがより豊かになることを目指した。



課題をもって読もう

場面の展開や登場人物に注意して読む。

空中ブランコ乗りのキキ

別役実

第282

空中ブランコ乗りのキキ 68

そのサーカステいちはん人気があったのは、なんといっても、サーカスの、大テントの見上げるように高い所を、こちらのブへ、三回宙返りをしながらキキが飛ぶと、テントにぎっしりいっような拍手をするのです。

「まるで、鳥みたいじゃないか。」
「いえ、どちらかというと、ひょうですね。」

「いや、お魚さ。あゆはちょうどあんなぶつに跳ねるよ。」

3つのステップで 目標にそった学習活動を支援

ひとりで学ぶ

この作品の登場人物は、それぞれどのような人物として描かれているだろうか。表に書き出してまとめよう。

学びの道へ入る

みんなて学ぶ

- 1 次の場面でのキキの気持ちを捉えよう。そして、捉えたことをみんなて話し合おう。
 - ① 三回宙返りのスタートだったとき。
 - ② ロロから四回宙返りを止められたとき。
 - ③ おばあさんからピビが三回宙返りに成功したと聞いたとき。
 - ④ 本番で四回宙返りに挑むとき。
- 2 ①～④の場面を一つ選んで音読し、感想を交流しよう。

学びを振り返る

「白い大きな鳥」は何を表しているのだろうか。理由をあげて、自分の考えを書こう。

広松

空中ブランコ乗りのキキ 78

学習目標を示すことで 目的を明確化

新しく常用漢字になった漢字も、この「漢字を身につけよう」のページで学習できます。

意味分野のグループごとに語彙として学ぶことができます。

千葉大学 伊坂淳一

新しい漢字の学び方を提案する

「中学生の国語」の8つのポイント
常用漢字が増えても安心

漢

漢字を身につけよう

中学校で学ぶ漢字

8

1 新しく学ぶ漢字に気をつけて読めるようになる。

● 社会を理解するための言葉

- ① この事件は欧米社会にも波紋を広げた。
- ② その政策には弊害も出始めている。
- ③ 社会が大きく変貌を遂げる。
- ④ ごみや廃棄物を減らす努力をする。
- ⑤ 名誉毀損にあたる行為に賠償を求める。
- ⑥ 各地で紛争が勃発している。
- ⑦ 社会を揺るがす事件が連鎖して起きる。
- ⑧ 世界から飢餓をなくす。
- ⑨ 食糧問題に終止符を打つ必要がある。
- ⑩ ともに生きる新しい哲学が求められている。



2 線部の漢字に気をつけ、漢字の読みを広げよう。

漢字の
レッスン

* 印は中学校で新しく学ぶ漢字です。
* 「2」は「1」で学んだ新しい漢字の別の音訓です。

- ① 計画を遂行する。
- ② 古い習慣が廃れる。
- ③ 誉れが高い。
- ④ 罪を償う。
- ⑤ 気が紛れる。
- ⑥ 紛らわしい表現。
- ⑦ 動揺がはしる。
- ⑧ 犬を鎖でつなぐ。
- ⑨ 飢えをしのぐ。

□ 同音異義語

ホシヨウ 損失を補償する。(うめ合わせる)
品質を保証する。(責任をもつ)
生活を保障する。(保護する)

□ 漢字の使い方

● 「食糧」は米や麦などの主食物に、「食料」は野菜や肉・魚などの副食物に使うことが多い。

広 110

215 言葉のレッスン (的確に読み解く)

『中学生の国語 一年』より

対義語・類義語・同音異義語、特に注意すべき用法などを確認できます。

漢字の読み替えについて同時に学べます。



いさか じゅんいち/千葉大学教授。言語事項の既成概念、伝統的な学習内容・学習方法を、あえて国語学プロパーの立場から変革することを目指している。著書に『ここから始まる日本語学』(ひつじ書房)など。

意味を重視し語彙として学ぶ

小学校で学ぶ漢字は四年生あたりから、例えば「健康」「選挙」のように実体が見えにくいものを表す漢字や熟語が増えてくる。高学年になると「貿易」「義務」のように、日常を離れ、抽象的な概念を表す漢字がほとんどとなる。子どもたちにとって漢字を獲得するとは、自己の外界、世界を認識するためのツールを手にすることであるといえる。

中学校で学ぶ漢字はさらに抽象度が高くなる。そこで、理解と表現に活用できる漢字力を身につけるためには、その漢字にとってもっとも一般性の高い意味を反映した使用頻度の高い熟語を、使用頻度の高い文脈の中に置いて学ぶことが効果的である。

平成24年度版は、18年度版で提案した「意味分野ごとにとまとめて学ぶ」方式をさらに進化させた。18年度版ではおよそ三〇%の漢字が、部首や読み方、熟語の構成など、漢字や熟語のしくみによる学習に委ねられていたが、今回は全ての漢字を意味分野ごとに学べるように、そして最も自然でわかりやすい短文の中に置いて学べるようにという点を優先して編成した。すなわち、どこでの漢字を学ぶのが偶然性によって支配される「読み

教材の中で新出漢字として学ぶ」方式や、単なる「文字や単語だけを文脈なしに覚える」方式からの完全脱却を図った。

さらに、教科書全体の構成原理である「表現力」「思考力」「言語感覚」などと関連付けて学べるようにした。例えば左の表のようになる。

読み替えや小学校配当漢字、新常用漢字でまとめて学ぶ

中学校で学ぶ漢字は一ページの中に新しい漢字二〇字を配当したが、同じページの後半には、その漢字の読み替えの熟語や、同音異

字・同訓異字、形の似ている漢字の使い分け方、対義語・類義語・同音異義語など、特に注意すべき用法などを記した。

また、中学校で新しく学ぶ漢字のページとは別に、小学校四〜六年の配当漢字五六六字すべてを、必ず「書けるようにする」ためのページを設けた。ここでも、言語力による單元構成、中学校で学ぶ漢字の意味分野との関連性を図った。さらに、いわゆる新常用漢字一九六字も、これまでの常用漢字と同等に扱い、三年間で読めるようにすることを目指した。

言語感覚	思考力	表現力		単元
		表現にかかわる言葉	表現に使える修飾の言葉	意味分野の項目
慣用句の表現	身体・健康を考えるための言葉	表現にかかわる言葉	表現に使える修飾の言葉	短文例（傍線がここで学ぶ漢字）
言語にかかわる言葉	考えることにかかわる言葉	・偉大な功績を残す。・賢明な判断を下す。・鮮明な印象を残す。	・できごとの詳細に言及する。・文章の要旨をまとめて、概略を理解する。	
	・体力の消耗。・栄養の摂取。・のどが渇く。・肌が荒れる。	・意見の根拠をはっきりさせる。・物事の特徴を把握する		
	・尊敬語・謙讓語・丁寧語…敬語の種類。・比喩・擬人法…表現の技法。			
	・悲しい話に顔が曇る。・寒さが緩んでくる。・師に教えを仰ぐ。			

『中学生の国語』の8つのポイント

三領域の指導事項の全てが繰り返し学べる

言語能力を着実に育てる

●『中学生の国語』編集委員会

指導事項と直結した見開き2ページ

三領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」

「読むこと」）のすべての指導事項を網羅した「確かめよう」という教材を新しく設けた。各ページのタイトルは、指導事項のポイントがつかめるよう配慮した。例えば、二年生の「書くこと」では、

「書く材料を探すには」（課題設定・取材）
 「伝えたいことを明確にするには」（構成）
 「説得力のある文章を書くには」（記述）
 「描写を工夫して書くには」（記述）
 「書いた文章を見直すには」（推敲）
 「文章の工夫について交流するには」（交流）

という配列になっている。

いつでも手軽に開ける

①「本編」の学習に入る前に開いて、学び方や学習内容のポイントを知る。
 ②「本編」の学習中に開いて、学び合うための手掛かりを得たり、考えを深めるための視点を得たりする。
 ③「本編」の学習後に開いて、学習の振り返りやまとめを行う。

というように、多彩な使い方が可能である。特に、「本編」で学んだ内容の確認や定着に役立つように、見開き2ページの最後には、タイトルにある学力を育てるための学び方として、二、三行程度で簡潔に示した。これ以後の学習においても、生徒が必要に応じて見返して利

用することを期待している。

四人の友達と仲良く学ぶ

どこのクラスにもいそうな四人の生徒のうち誰かがもった課題について、残りのメンバーと一緒に悩んだり、アドバイスをしたりしながら学習を深めていくスタイルになっている。

「確かめよう」を使って学習する生徒に「学び合うことの大切さ」を伝えるとともに、一人学びの際にはこの四人と一緒に学び合っているような楽しさを味わわせたいと考えた。

学習課題

8

伝えたいことを明確にするには



268



田中さん
言葉についての
関心が強い。



村木さん
物事を論理的に
考える。

「確かめよう」に登場する生徒たち

まとめ 学習課題の追求

確かめよう

- ① 伝えたいことを明確にするには
- ② 読み手に伝わりやすいよう、文章の構成や段落分けを工夫しよう。

広
狭
長
短

269 書くこと



下の文章では、伝えたいことが最初に書かれているので、そのあとに書かれている理由がわかりやすいよね。



どちらの文章でもその理由は書かれているけど、下の文章は理由ごとに段落分けがされているので、読みやすいように感じるな。



下の文章は、書きだしの文と結びの文がうまく結びついていて、筆者の考えがよく伝わる構成になっていると思うよ。

★確かめてみよう★
二つの文章を音読し、印象の違いを確かめてみよう。

電車の座席に若い人が座っていて、その前にお年寄りが立っている光景をよく見かけます。若い人は、優先席でないから席を譲らないでもいいと考えているのかもしれない。でも、優先席があるからそれ以外の座席では席を譲らないということはおかしいと思います。また、優先席の数も少なすぎると思えます。電車などでは、車両の端のほうにいくつかあるだけです。私の利用している地下鉄では優先席をなくし、その代わり、車内のいたるところに、全部の座席が優先席であると書いてあります。私は、このやり方に賛成です。

私の利用している地下鉄では優先席をなくし、その代わり、車内のいたるところに、全部の座席が優先席であると書いてあります。私は、このやり方に賛成です。そう考えるようになった理由の一つは、電車の座席に若い人が座っていて、その前にお年寄りが立っている光景をよく見かけるからです。優先席があるから、それ以外の座席では席を譲らないということはおかしいと思います。も一つ一つの理由は、優先席の数が少なすぎることです。電車などでは、車両の端のほうにいくつかあるだけです。全部の座席を優先席とし、お年寄りがどこにいても席を譲るような社会にしたいと思えます。

「中学生の国語 二年」の「確かめよう」より



石川さん
もの知りで、
好奇心が旺盛。



小林さん
感性が豊かで、
勤がいい。

一人で学ぶ力を育てる

見開き二ページは、

学習課題→考えるためのヒントやアドバイス
→ヒント等を生かした学習課題の追求→まとめ

という構成になっており、この順序にしたがって学習を進めていけば、一人で学んでも無理なく確実に基礎・基本の定着が図れるようになっていく。

「中学生の国語」の8つのポイント

他教科の時間や日常でも使える資料が充実

言語活動をより豊かにするために

●福井大学 松友二雄

言語活動をより豊かに導くヒント

別冊資料編『学びを広げる』の「情報活用編」は、学習者の言語活動をより豊かにするためのヒントに満ちているページである。「情報の集め方」や「情報を整理・活用する方法」など言語活動を支える「方法」を目的や場面に即して示しているので、言語活動を進めている学習者を、より確にかつ豊かにサポートすることができる。

情報を活用する方法を分かりやすく示す

「あつめる」、「いかす」、「とく」、「とどける」など各項目の表題として掲げている言葉は情報を活用する方法である。調べ学習で集めた情報に限らず、各教材に記述されている内容や自分の意見・考えなどを理解したり表現したりする方法そのものをわかりやすく示している。言語活動の導入や振り返りの場面でこ

のページを参照することで、言語活動を通してどのような方法を習得したか、またどのような方法が見落とされていたかなどを見出すことをサポートしている。

学習者の「やってみよう」という意欲を喚起する

級友や先生に「説明する」場面で、あらかじめこのページを参照することで、「上手く説明できるかな」と不安に思っている学習者や

「どうやって説明していいかわからない」と迷っている学習者などの意欲を喚起することができる。

説明の際の重要なポイントとして「説明を焦点化する」事を示しながら、その具体的な方法として、「キーワードを挙げる」、「ポイントをしぼる」、「視覚化する」の三点を示している。学習者にポイントと方法をあらかじめ理解させ、見通しをもって言語活動に取り組むことをサポートしている。



まつとも かずお/福井大学准教授。ことばの力の具体的な形成過程を明らかにし、より効果的な授業・学習のあり方を模索している。また、サイトを立ち上げて学校現場への多角的な情報支援に取り組んでいる。(http://www.jle-labo.com)

人からの情報収集

情報の比較

考えのメモ

表とグラフによる比較

引用の機能

文学的な文章の要約

説明の焦点化

材料をまとめる編集

場に応じたメッセージ

評価の視点

とく

説明の^{しょうてん}焦点化

説明をするときには、何を伝えようとしているのかを明確にすることが大切です。

キーワードをあげる

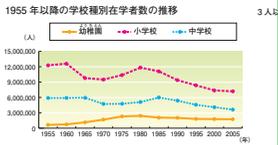
聞き手が理解するための手がかりとなります。



学校を活性化するためには、次の三つのことが必要だと思います。
まず「部活動」、次に「生徒会・委員会活動」、最後に「ボランティア活動」です。
なぜこの三つが必要かという、……。

視覚化する

目に見える形で



グラフ



地図

ポイントをしぼる

伝える中心をはっきりさせましょう。

中学校生活を楽しむための三つの要素

- 1 いつも明るく!
 - 2 なにごとにも楽しく!
 - 3 常に前向きに!
- 「あ・た・ま」と覚えてください。



注目してもらう工夫



大きく映し出す



指し示す

教育基本法や中教審答申に伝統文化の尊重が明記され、従前に増した各学校段階、各教科での指導が求められることになりました。ここでは、古典から始める国語の授業を提案します。



さとう さとし
大学 公立
／ 越 教育 附
任 准 属
中 学 校
校 教 諭
現在 は
大 学
に 在 任
中
。 派
遣 さ
れ て
い
る
。 架
々
し
た
く
の
実
験
を
試
み
て
い
る
。 発
信
の
論
文
を
書
き
て
い
る
。

新入生との出会いは「古典」で

●上越教育大学 佐藤佐敏

一 授業をスタートさせるときのポイントは？

入学したばかりの新入生の教室には、破裂しそうな緊張感と期待感が漂っている。「中学校の国語は、どんなかなあ、小学校の国語と違うのかなあ」という彼らの心の声が聞こえそうである。

初めの授業では、次のポイントをおさえる。

1 「中学校の国語は、楽しそうだな」という興味関心を引き出し、「知りたい、できるよ」となりたいたい、頑張ろう」という学習意欲を喚起させる。

2 一年の見通しをもたせ、国語教室の年間を通じたルールを確認する。

3 生徒の名前を確認する。

2と3の方法については他に譲り、本稿では、初めの授業で「古典」を扱った場合の「生徒の頑張る気持ちの引き出し方」にしばって述べる。

二 いきなり古典ですか？

戸惑う教師もいるであろう。小学校とのギャップをあまり感じさせないようにスムーズに中学校の授業に誘いたいと思っている教師にとっては、「ハードルが高いのでは」と思うことであろう。筆者も、そう思っていた。

しかし、時代の潮流は「伝統的文化の重視」である。発想を転換してみよう。すると、古典から授業を始めるのは悪くないことが見えてくる。

1 他領域に比べると、小学校からの系統性が明瞭であり、バトンタッチしやすい。

2 やるべき学習内容が明確なので、授業準備も容易である（教材研究する余裕のない忙しい四月にはとても助かる）。

3 「背伸びしたい」と考えている新入生のやる気に訴えることができる。

これらのメリットがある。このメリットを最大限生かして授業をスタートさせる。

三 古典って、何？

質問 今、皆さんが聴いているミュージシャンで、三〇年後もまだ、TVで活躍していたり、CDが売れていたりするグループや歌手は、誰だと思えますか？

一分、時間をとり、ミュージシャン名をメモさせた後、列指名でテンポよく発言させる。たくさん生徒に発言させた後、例えば、次のような生徒の声を拾う。

S 「名前は、わかんないんだけど、『クリスマス・イブ』を歌っている人……」

T 「あ、山下達郎だね（ちょっと物まねしてサービスする）。みんな、聞いたことあるよね。あの曲は、およそ二五年前に作られた曲だよ。きつと、クリスマスが近付くたびに、これから三〇年経っても五〇年経っても街中に流れるだろうね。」

どんな時代になっても、それを「いい」って思う人がいたら、それは、次の時代に引き継がれていくんだよね。つまらなかつたら、その時代で消えていってしまう。

例えば、モータールウなどとは二〇〇年

経った今でも、人々が「いい」と思うから、あちらこちらで演奏されているんだよね。きつと、モーツァルトの曲の中でも、時代にうもれて、演奏されなくなった曲もあるだろう。そういう意味で、長い歴史に堪えて引き継がれてきたものを「古典……クラシック」と言うんだ。

では、ここで、小学校の時に、皆さんが引き継いできた「古典」を思い出してみよう。暗唱した古文はない？多くの人たちが「いい」と思う何が、そこには、あったはずだ。

四 伝統的手法で良いのですか？

ここで、『中学生の国語 一年』を開いてみる。すると、小学校の古典でそらんじた『枕草子』『徒然草』などの冒頭部が目に入る。

まずは、それを教師が格調高く朗読する。この「格調高く」というところが勘所である。「すべての教科をこなす小学校の先生と違い、国語を専門とする中学校の先生は違うぞ、この読み、カッコイイ」と感じさせる。

そして、「追い読み」をする。ここでは、「ダメ出し」を連発する。「全然声が出ていません」「リズム感がないですね」「これでは中学校では通用しません」などと笑顔で明るく挑発する。背伸びしようとしている中学一年生は、必ず、

これに応える。その頑張りを見取り、読みが変化したのを確認した上で、拍手とともに、「間違えるようになりました。素晴らしい！」と褒める。ここでは生徒を丸ごと受容するのではなく、向上した姿と努力の跡を褒める。

これで小中の橋渡しができた。次は古文の視写である。「先生が黒板に視写するよりも、速く、正確に視写しなさい」……当然、教師は生徒より速く、しかも美しく板書する。中学校では実力のない教師は生徒に軽んじられる。まずは、国語の専門家としての実力を生徒に知らしめる（朗読と視写に自信のない教師は練習する）。

そして、あえて間違った視写をする。生徒から、「先生、黒板、間違ってますよ」と声が掛かる。中には「先生が間違っている」とほくそ笑んでいる生徒もいる。「黒板の視写には、○箇所、間違いがあります。全てみつけない」と指示を出す。「誤字」「歴史的仮名遣い」「送り仮名」「脱行と脱字」「句読点といった記号」……すべてを挙げる生徒は意外と少ない。「全てみつけれませんか」「みなさんの実力はそんなものですか」「ここでも満面の笑顔で問い掛ける。全てを見つけたところで、「なかなかやりますね、素晴らしい！」と褒め、視写で間違いやすいポイントを板書する。

その後は、ポイントに従って、ペアで互いの視写を点検させ、正確だった生徒を起立させて全員で拍手を贈る。

視写の後は、古文の大意の確認や暗唱である。どの教室でも行われているようにオーソドックスに展開して問題はない。

ただ、定期テストでは、授業で教えなかった細かいことを出題すると、古典嫌いや国語嫌いを増やすことになる。数学も英語も一年の最初の定期テストは九〇点台が続出する。国語も出題内容を予告し、予告した内容にしばった基本的な内容のみを出題する。そして、暗唱や視写こそを評価したい。

奇をてらう必要はない。古典を学年の最初に扱うからといって特別なことはしなくてもよい。それどころか、音読（追い読み）と視写と暗唱といった伝統的手法で授業するのがよい。

中学に入学したばかりの生徒たちは、背伸びしようとしている。我々教師が生徒を子ども扱いして生徒の次元に降りるのではなく、生徒を中学校の次元に引き上げる。そういった意味では、古典は、授業を始めるときの教材として適している。

伝統的文化を扱う古典を伝統的手法で授業することで、中学校の国語授業の好スタートを切りたい。

第1回

常用漢字になりました。

平成22年11月30日、新しい常用漢字が内閣告示されました。追加された漢字の中から、互いに関係がある3字を取りあげ、成り立ちや変遷をご紹介します。

●早稲田大学 笹原宏之

「地名」に関する漢字



ささはら ひろゆき / 早稲田大学教授。博士(文学)。専門は日本語と漢字。文部科学省の常用漢字表改定の委員。編著に「当て字・当て読み漢字表現辞典」など。



『中学生の国語』では、意味分野のグループごとに漢字を学習します。

大阪は、江戸時代には「大坂」と書かれていました。江戸時代にも「大阪」と書くことはすでに見られましたが、明治維新後に、せっかくの街が「坂」では「土に反(返)る」となってしまい縁起が悪いといって「阪」に替えられたという説があります。明治初年に「大阪」の表記が都道府県名として採用されると、関西では地名や姓の「坂」が「阪」に変わっていきました。三重県の「松阪」もその影響で「阪」となった地名の一つです。

【おおさか】
大
阪

【とちぎ】

栃木

栃木の栃は、国字、つまり日本製の漢字です。平安時代末期には「柎」と書かれていました。これは「十干」で「とち」という万葉仮名によるしやれに基づき、十掛ける千は万ということと造られたと解釈されています。それが、明治維新のころに、漢字の「櫛」というトチと似た意味をもつ漢字（音読みはレイ）と混同されました。その結果、「柎」という新しい国字ができたのです。

【なら】

奈良

奈良の奈（漢音ダイ・ダ、呉音ナイ・ナ）は、古くは、大の部分は木で、その下に示と書き、もとは小さなリンゴのような実のなる木を表しました。呉音のナという発音でよく利用されるようになり、「ナラク」（梵語で地獄の意。奈落）「ナポレオン」（奈破論）などと使われ、次第に「奈々」など女性の名にも使えるようになってきました。

👉 次号では、「食」に関する字を紹介します。



●課題としての電子黒板活用

読むことの指導において、教材そのもの、指導内容に関連する短い映像、資料などの提示に電子黒板を活用する授業、あるいは書くことの指導としての新聞作りにおいて、記事の書き方、見出しのつけ方、記事のレイアウトなどを電子黒板で示し、生徒の意欲的な活動を引き出そうとする授業などが見られるようになった。

文部科学省実施の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査（二〇一〇年）」によると、公立中学校における電子黒板整備学校数は五二〇六校で、公立中学校数（九九六二校）に対する割合は五二・三％になっている。

●当面する課題とは

設置に伴う課題は、次のように整理して捉えることができる。

- ①指導のどこにどう活用するか、電子黒板を活用する指導開発に関する研究。
- ②効果的な活用、何が課題であるかを検討する協議体制の整備。
- ③先導的な実践や適正な活用に関する情報の収集と共有。

授業展開の道具としての電子黒板の持つ有効性については、まだ十分に追求されていない。電子黒板によつ

52.3%

公立中学校における電子黒板整備の割合

て、指導のねらいに即して教材が提示される。指導展開の過程で、指導内容に関連する写真、動画、各種資料が提示される。そのことによって、生徒の学習意欲、学習の効率化が促されるであろうと考えられる。しかし、そこに確かな保証があるわけではない。活用の仕方を誤れば、電子黒板に提示される情報が力を持てば持つほど、学習者である生徒を受身に置くこともないとはいえない。重要なことは、生徒の主體的な学習活動を促し、「確かな学力」を身につけることに役立てることである。指導開発に関する研究、そのための体制の整備が重要である理由がここにある。

●まず求められることは

情報教育には、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度という三つの柱がある。まずは、電子黒板が教育の情報化にどう位置付くかの共通理解が求められる。

次いで、電子黒板が授業改善にどのような効果を発揮し得るか、そこにはどのような課題があるかの検討である。

教室のICT整備の見通しを立てる。もし電子黒板等の機器を設置するとすれば、その管理と活用の十分な体制を整える。そうした検討に基づいての導入と、各学校の実態に応じる、効果的な活用の展開が期待されている。



読書の力

—国語授業と学校図書館との連携・協力—

太田克子・村田伸宏・「群馬・国語教育を語る会」著

1,995円(本体1,900円+税) / B5判・160ページ / ISBN 978-4-385-36491-9

- 「走れメロス」を「読書」の視点で捉え直すなど、役立つ実践が満載。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域と関連した読書活動の様々なアイデアを提案。
- 「ブックトーク」「アニメーション」「リテラチャー・サークル」などの解説の資料も充実。

これからの学校教育で、生きてはたらく言葉の力を育成するためには、国語の教室と学校図書館とをつなぐことが不可欠である。学校図書館を活用した授業アイデアや、多様な読書活動の具体的方法を提案する。



俳句の授業ができる本

創作指導ハンドブック

日本俳句教育研究会

三浦和尚 夏井いつき 編著

2,100円(本体2,000円+税) / B5判・112ページ / ISBN 978-4-385-36515-2

- 俳人夏井いつき考案の「句会ライブ」実践例が満載。
- 「選句力」をつけるためのノウハウを知れば、俳句の評価もばっちり。
- 音を聴いて俳句を作る「音俳句句会ライブ」のサンプル音CD付き。

新学習指導要領に盛り込まれた俳句の創作は、全ての教育活動の核として機能する可能性を秘めている。「俳句は難しいもの」と不安を感じる先生方に、誰でも五分で一句作れる俳句創作指導法を伝授する。

ことばの学び

平成24年度版
『中学生の国語』教科書特集号I

2011年5月18日発行
編集・発行人 北口克彦

●発行所 株式会社 三省堂
〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14
TEL 03(3230)9427(編集)
振替 東京 00160-5-54300
三省堂印刷株式会社
〒192-0032 東京都八王子市石川町2951-9

サポート・ネットワーク・プログラム(SNP)

- 漢字・語句学習ノート
- ワークブック
- 常用漢字ドリル など



辞書

- 学習指導書
- 朱書編
- 学習指導事例集
- 音読・朗読CD
- 読書の森へ など

学習指導書

生徒用教材

指導用教材

- 教科書準拠デジタル教材
- 指導資料DVD など

サポート書籍

『ことばの学び』



私たちは、教科書を中心としながら、さまざまな「学びのサポート・プログラム」を提案します。「中学生の国語」「中学生の書写」に加えて、このSNPが教科書の一部として機能します。



平成24年度版
中学校教科書
Webサイト

<http://tb.sanseido.co.jp/24/>

- 『思考力・判断力・表現力等を育成する方策』
- 『言語活動の充実』とは何か
- 『情報社会の安全・安心』
- 『読書の力』
- 『国語授業と学校図書館との連携・協力』
- 『俳句の授業ができる本』
- 『創作指導ハンドブック』

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 電話03-3230-9411 (編集)・9551 (営業)

- 大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 電話06-6341-2177
- 名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-25-43 瑞穂ビル4F 電話052-252-9211・9212
- 九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 電話092-531-1531・1532
- 札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西15丁目2-1 ラスコム15ビル3F 電話011-616-8722

回覧

この資料は、社団法人教科書協会「教科書宣伝行動基準」に則って作成しております。